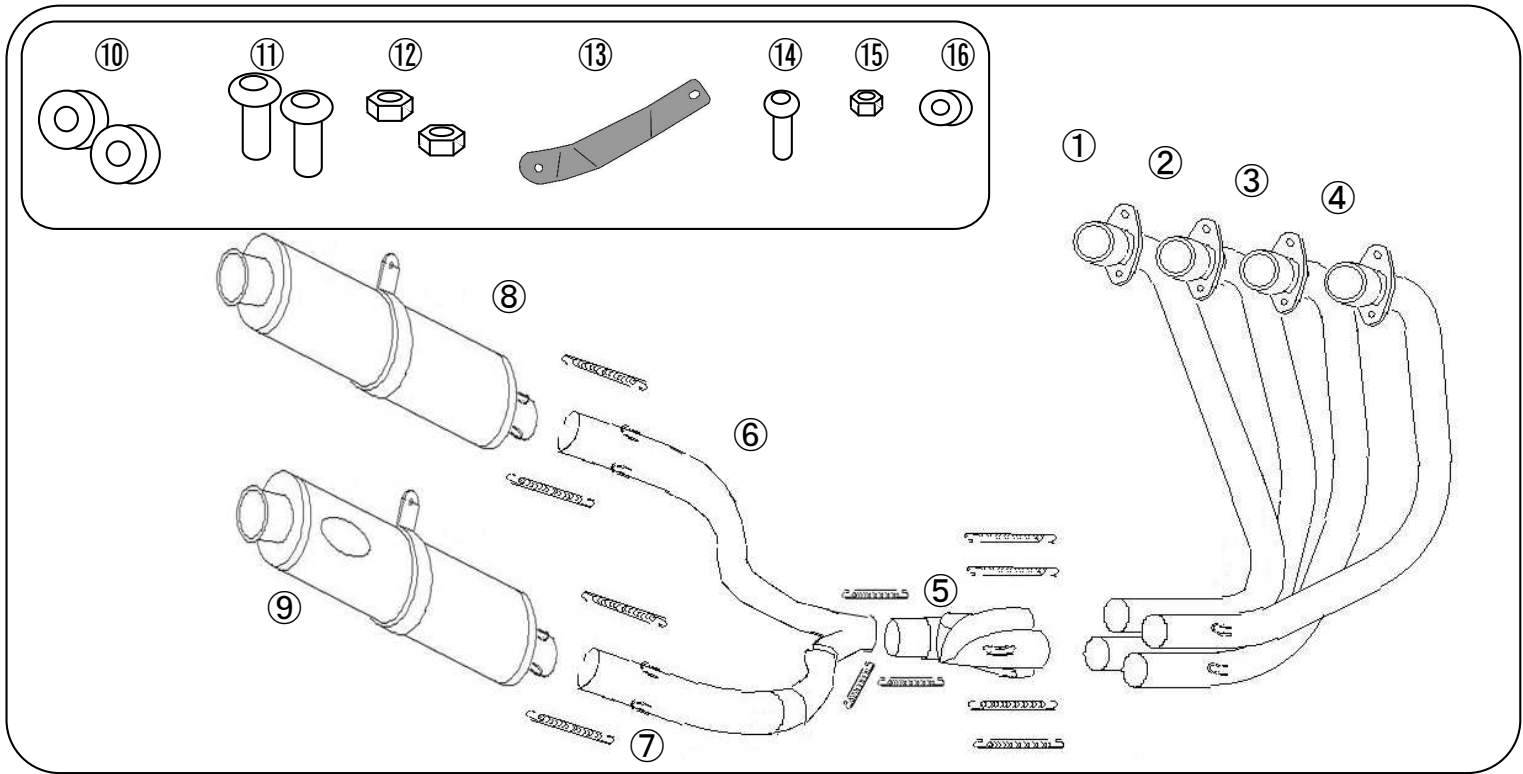


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。このマフラーは、アジア一般向けNinja1000/ABS (ZXT00L/M)用となっております。その他の機種(仕向け地・車両型式)に関しては、取り付け確認及び車検対応の確認を行っていませんのでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



①純正マフラーの取り外し

右アンダーカウル(金属)及び純正マフラーを取り外します。(マフラー・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従ってください。)取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部はノジママフラーを取り付ける際にも使用します。

※O2センサーはノジママフラーにも使用します。

②エキゾーストパイプの取り付け

エキゾーストパイプを取り付けます。フランジ部のナットは仮止めの状態(取り付けたパイプが多少動く程度)にしておいて下さい。

※エキゾーストガスケットは新しいものをご用意下さい。

※①～④の識別シールは装着後では剥し難いため、番号確認後、組付け前に剥すことをお勧めします。スパイラルコレクター部分も同様に行ってください。

③集合及びテールパイプの取付け

①～④EXパイプに⑤集合(スパイラルコレクター)を組み付け、続いてテールパイプを集合に差込み、それぞれスプリング(首振りではないタイプ)を掛けます。集合とオイルパンが干渉していない事を確認し、必要があれば調整を行って下さい。テールパイプにO2センサーを取り付けます。センサーの配線に無理な力がかかったり振れたりしない様ご注意下さい。

パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
①	EXパイプ #1	1
②	EXパイプ #2	1
③	EXパイプ #3	1
④	EXパイプ #4	1
⑤	集合	1
⑥	テールパイプ 左	1
⑦	テールパイプ 右	1
⑧	サイレンサー左	1
⑨	サイレンサー右	1
⑩	カラー	2
⑪	ボルト M10-60	2
⑫	Uナット	2
⑬	アンダーカウルステー	1
⑭	ボルト M6-20	1
⑮	ナット M6	1
⑯	カラー	1
	スプリング	7
	スプリング(首振り)	4

※各差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を薄く塗布する事をお勧めします。

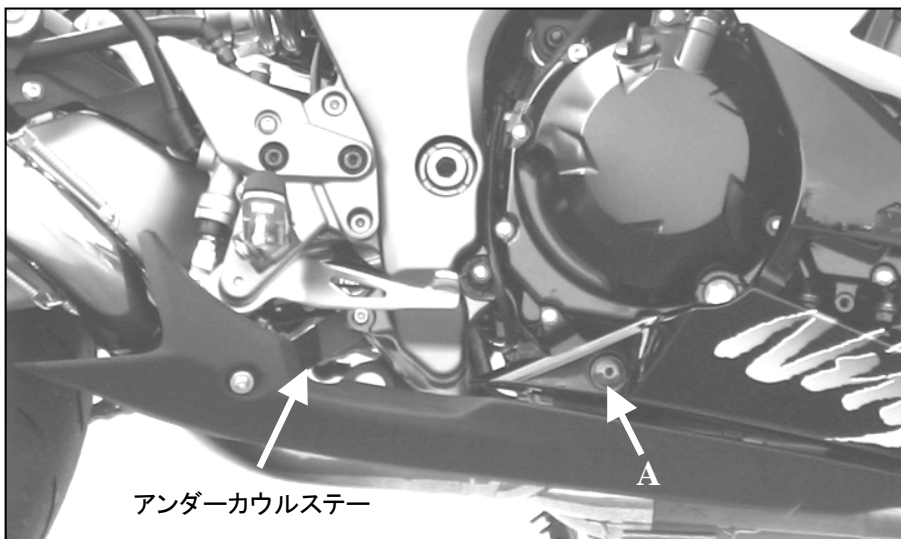
※スプリングはペンチ等を用いて作業すると折損の原因になりますので、必ずスプリングフック等をご使用下さい。

④サイレンサーの取付け

左右のサイレンサーをテールパイプに差込み、スプリング(首振りタイプ)を掛け、サイレンサーバンド・⑩カラー・⑪ボルト・⑫Uナットを用いてサイレンサーを仮留めします。(バンドはステーの外側になります。) テールパイプやサイレンサーと、車体・スイングアーム等に干渉が無い事や左右サイレンサーの高さ等を確認し、問題がある場合は各差込み部で微調整を行った上で、最後にフランジ部・サイレンサー部のボルトナット類を本締めします。

⑤右センターカウルへのカラーの取り付け 及びアンダーカウルの取付け

カウルとパイプとのクリアランスを確保する為、右図矢印Aの箇所の右センターカウルとステーとの間に⑩カラーを挟んで純正ボルトで共締めします。次に⑬アンダーカウルステーの長穴側を⑭ボルト・⑮ナットを用いてフレームに仮留めします。次に右アンダーカウルを⑨カウルステーのネジ山の切っただけの側の穴に純正ボルトを用いて仮留めします。最後に位置をあわせながらそれぞれ本締めして下さい。



⑤最終確認

以上で作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。

⑥セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態での性能を発揮するように設計されておりますので、基本的にセッティングは不要です。(より突き詰めてセッティングを行う事でより良い結果を得られる場合はございます)

又、アクセルを戻した際に起こるアフターファイヤーが純正マフラーに比べて目立つ場合がありますが、これは車両の吸排気系が排ガス浄化の目的で積極的にマフラー内で二次燃焼を起こす仕組みになっている為であり、特に不具合等の心配はございません。(純正マフラーはサイレンサー内に壁が多い構造の為アフターファイヤーが目立ちませんが、純正マフラーでも同様に発生しています。)

注意！

走行中や走行後、マフラーは非常に高温になります。特にこのマフラーは排出ガス浄化の目的で、サイレンサー差込み付近に触媒を使用しており、従来のマフラーに比べ更に高温になりますので、より一層の注意が必要です。火傷や衣類・靴等への熱害・損傷には十分お気をつけ下さい。又、駐車の際は他の人が触れない様にご配慮下さい。

● グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブリさせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)

グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。

- 走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気をつけ下さい。
- シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。
- 本製品はJMCAの認定を受け、排気ガス検査成績書を付属しております。車検時に必要となる大切な書類ですので無くさないように注意して管理してください。(再発行は有償となります)
- 転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。